

# 高知くらしの護身術

174

## 傘の事故

### 仕組みや注意表示確認を

(2010年6月22日掲載原稿)

梅雨シーズンは傘が必需品となりますが、使い方によっては思わぬ事故を招きかねません。

例えば自転車用傘ホルダー。雨が降っていないとき運転の邪魔にならないように傘の柄をハンドルに掛け、ホルダーに傘の先端を固定する道具です。このホルダーに差し込んだ傘の先端が前輪に巻き込まれて転倒したり、大けがをしたという事故が発生しています。

傘ホルダーには1点留めと2点留めの2種類があります。国民生活センターが検証試験を行った結果、1点留め式はハンドルの状態やハンドルへの傘の掛け方、走行する路面状況により、傘が外れる恐れがあることが分かりました。使用は避けるべきと警告しています。

また、ジャンプ式や自動開閉式の折り畳み傘の取り扱いにも注意が必要です。ジャンプ式や自動開閉式の折り畳み傘を畳んで傘袋に入れようとしたら、急に柄が飛び出し、額や鼻、唇を切った。もしくは目に直撃し、一生瞳孔が開いたままになったという事故があります。折り畳み傘の柄が飛び出る力は、アルミ缶が大きくへこむほどの衝撃が確認されています。

ジャンプ式や自動開閉式の折り畳み傘を閉じたり傘袋へ収納する際は、開閉ボタンの操作に気を付けましょう。きちんと中棒を手で押し込んでロックさせ、顔の近くで操作しないように注意してください。

すでに販売中止になった商品もありますが、いま一度、使用中の傘ホルダーや手持ちの傘の仕組み、注意表示を確認してください。